
[Ver11.1の新機能]

2025年3月リリース版

目次

ARCHITREND ZERO Ver11.1の新機能 2025年3月リリース版

処理選択	1	省エネ仕様基準図	15
2025年4月施行 法改正版の処理メニューを新設	1	丸め方法表の配置	15
物件選択	2	3Dカタログ証明書のダウンロード対応	16
ATDrive/AT ONE モードに物件情報機能の追加	2	設備凡例入力ボタンの識別	16
平面図	3	方位図の対応	16
ガラス種類の絞り込み検索	3	基礎伏図	17
壁量計算2025の読み込み	3	木造壁量計算2025の柱・耐力壁の読込	17
整合化チェック 壁量計算2025の対応	4	木造床小屋伏図	18
汎用機能	4	木造壁量計算2025の耐力壁・火打の読込	18
2D部品（2D部品の収まり図追加）	4	木造構造計算	19
木造壁量計算2025	5	設計方針（構造上の特徴）の対応	19
N値計算 法改正対応	5	特殊耐力壁の壁倍率0.0の対応	19
必要壁量 積雪量の緩和計算	6	建物全体と異なる剛性について	19
2×4壁量計算2025	6	2×4構造計算	20
2×4壁量計算 法改正対応	6	法改正の対応	20
一括自動 新基準に対応	7		
必要壁量 新基準に対応	7		
基準法に準耐力壁等の算入	7		
耐力壁・準耐力壁凡例にMDFを追加	8		
平面図に準耐力壁等を描画	8		
準耐力壁等割合確認表	9		
表計算ツールExcel出力	9		
仕様表	10		
2D部品の配置機能を追加	10		
仕様表テンプレートを追加	10		
外皮性能計算	11		
熱的境界（基礎）土間天端高さの対応	11		
省エネ仕様基準	13		
自動配置時の外気床チェック機能	13		
3DC ガラス仕様選択の絞り込み対応	13		
設備機器のサイズ指定入力対応	13		
切断線の描画に対応	14		

ARCHITREND ZERO Ver.11.1 の新機能

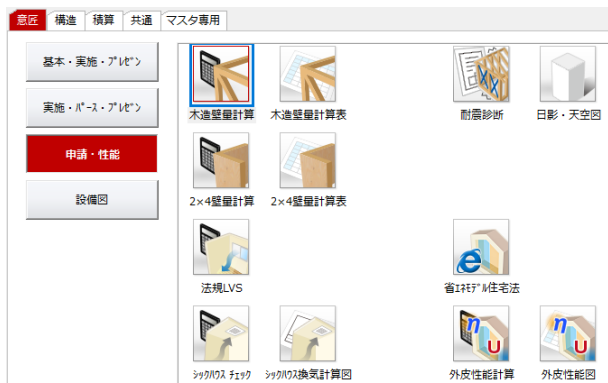
処理選択

2025年4月施行 法改正版の処理メニューを新設

ZERO Ver11（2024年10月版）では、建築基準法改正に伴い処理選択メニューに「申請・性能（2025～）」のメニューを追加しました。「仕様表」「省エネ仕様基準」「省エネ仕様基準図」「木造壁量計算 2025」「木造壁量計算表 2025」が追加となりました。

ZERO Ver11.1（2025年3月版）では、「2×4 壁量計算 2025」「2×4 壁量計算表 2025」の新プログラムに対応しました。

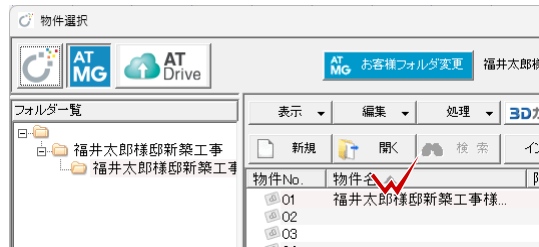
処理選択のメニューには、「2×4 壁量計算 2025」「2×4 壁量計算表 2025」のアイコンが表示されます。



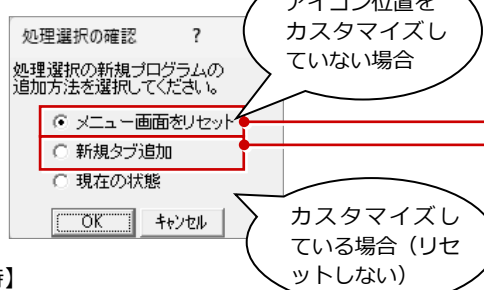
【 Ver.10 の「意匠」タブのメニュー】



【 Ver.11.1 の「意匠」タブのメニュー】



【バージョンアップ・リビジョンアップ後の初回物件起動時】



バージョンアップまたはリビジョンアップして Ver11 や Ver11.1 にした場合には、上記の操作手順を実施することで、「申請・性能（2025～）」メニューや「Ver11」「Ver11.1」タブを表示することができます。処理選択メニューに新アイコンを表示しない場合は「現在の状態」を選択してください。

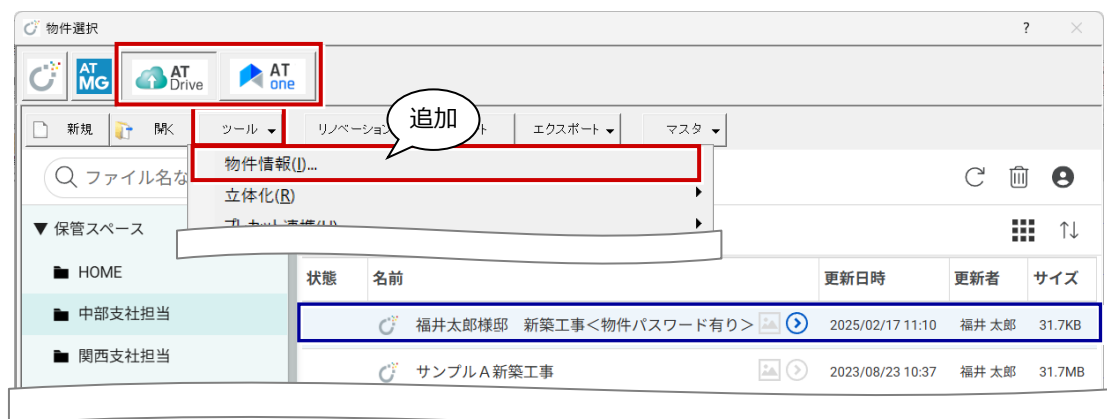
詳細については、お客様サポートサイト「インストール/認証・起動-その他お困りごと-アップグレード（バージョンアップ）時のよくあるお問い合わせ」[「Q：物件を開いたときに「処理選択の確認」ダイアログが開きます。どれにチェックを入れればよいですか？」](#)を確認してください。



物件選択

ATDrive/AT ONE モードに物件情報機能の追加

新規作成時に作成した物件パスワードを ATDrive/AT ONE 管理モードでも変更・解除できるように改善しました。
各モードの「ツール」メニューに「物件情報」を追加しました。



ダウンロード後

物件パスワード入力

パスワードを入力

パスワードは6文字以上20文字以下の半角文字を使用してください。

OK キャンセル



物件情報 [変更]

物件 No 作成日 更新日

物件名

備考

担当者

物件マスタ

在来木造

ベントハウス 階

地上 階

地下 階

階高設定

仕様書からの入力

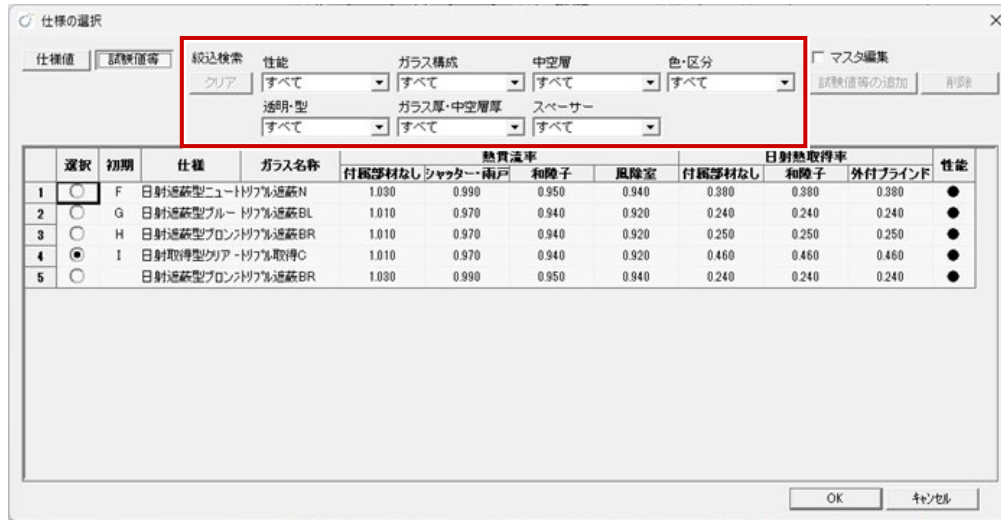
物件パスワード設定 OK キャンセル

※「物件パスワード設定」に関しては、ヘルプを参照してください。

平面図

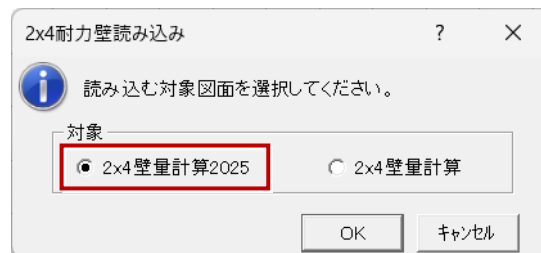
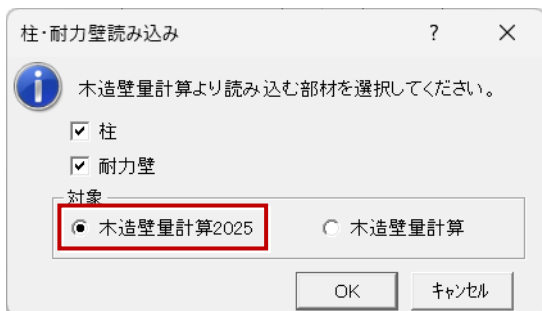
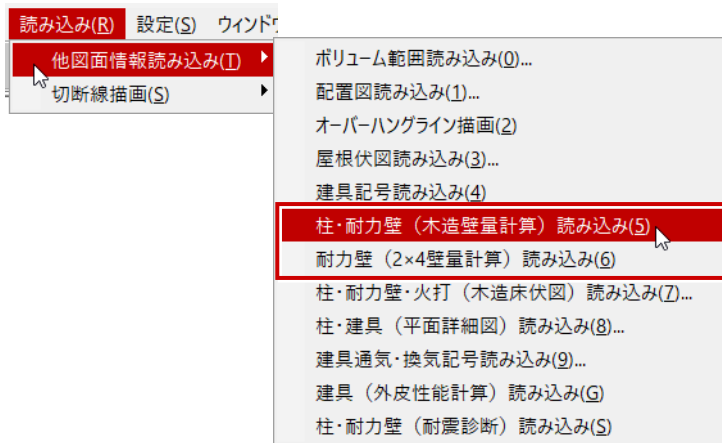
ガラス種類の絞り込み検索

建具のガラス（仕様値/試験値等）仕様の選択時に絞り込み検索ができるように改善しました。



壁量計算 2025 の読み込み

柱・耐力壁に関して、平面図（平面詳細図）へ壁量計算 2025 を読み込めるように対応しました。（木造/2×4）

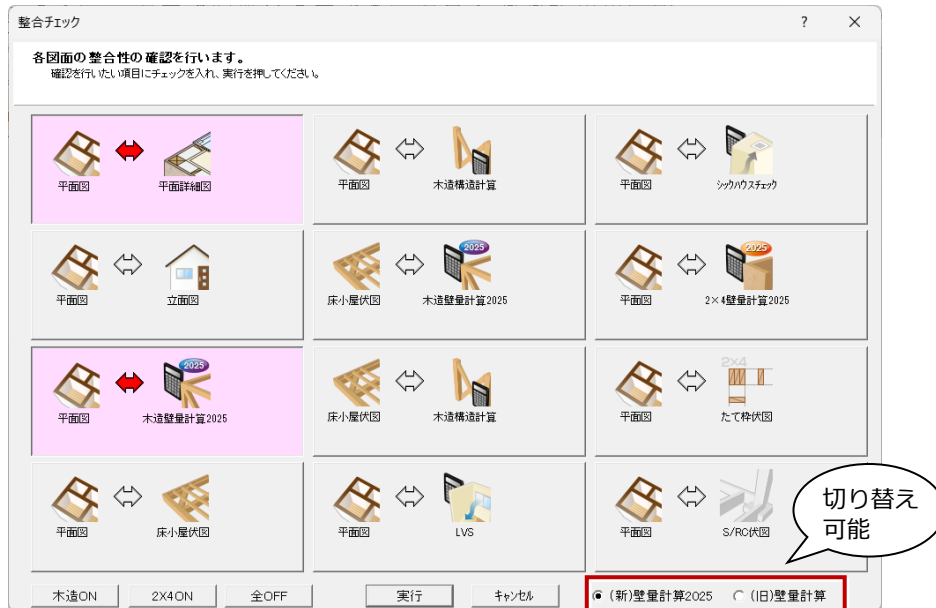


整合チェック 壁量計算 2025 の対応

(新) 壁量計算 2025 を読み込めるように対応しました。

- ・「(新) 壁量計算 2025」: 「木造壁量計算 2025」または「2×4 壁量計算 2025」が対象
- ・「(旧) 壁量計算」: 「木造壁量計算」または「2×4 壁量計算」が対象

※手順は「平面図」のヘルプ（図面整合チェック）を参照してください。



汎用機能

2D 部品（2D 部品の収まり図追加）

「12.仕様表用」が追加されました。※本書 P10 参照

また、「7.性能凡例 2」にも部品が追加されました。※本書 P12 参照



木造壁量計算 2025

N 値計算 法改正対応

2025年4月施行の建築基準法改正に基づいたN値計算に対応しました。各階の引き抜き力に対して、「当該階の横架材の上端の相互間の垂直距離 ÷ 2.7」の係数を乗じます。

新しい算定式では、横架材の上端の相互間の垂直距離が 3.2m 以内の場合には従来通りの計算結果ですが、3.2m を超える場合はより高い引き抜き力で検討します。**ZERO では、3.2m 以内の N 値計算が可能で、その場合のアウトプットに対応しました。**

【2025年4月法改正 以前のN値計算】

平屋建て 2階建ての2階
2階建ての1階で上に2階がない部分

$$N = A_1 \times B_1 - L$$

N : N値
 A₁ : 検討する柱の両側の壁倍率の差
 (筋かいの場合は補正した数値)
 B₁ : 出隅の場合0.8、その他の場合0.5
 L : 出隅の場合0.4、その他の場合0.6

2階建ての1階で上に2階がある部分

$$N = A_1 \times B_1 + A_2 \times B_2 - L$$

N・A₁・B₁は左記と同じ
 A₂ : 検討する柱に連続する2階の柱の
 両側の壁倍率の差
 (筋かいの場合は補正した数値)
 B₂ : 2階出隅の場合0.8、その他の場合0.5
 L : 出隅の場合1.0、その他の場合1.6

【2025年4月法改正 新基準のN値計算】

NEW

平屋建て 2階建ての2階
2階建ての1階で上に2階がない部分

$$N = (A_1 \times B_1) \times H_1 / 2.7 - L$$

N : N値
 A₁ : 検討する柱の両側の壁倍率の差
 (筋かいの場合は補正した数値)
 B₁ : 出隅の場合0.8、その他の場合0.5
 L : 出隅の場合0.4、その他の場合0.6
 H₁ : 当該階の横架材の上端の相互間の垂直距離
 ただし、3.2m以下の場合は2.7mとする

NEW

2階建ての1階で上に2階がある部分

$$N = (A_1 \times B_1) \times H_1 / 2.7 + (A_2 \times B_2) \times H_2 / 2.7 - L$$

N・A₁・B₁は左記と同じ
 A₂ : 検討する柱に連続する2階の柱の
 両側の壁倍率の差
 (筋かいの場合は補正した数値)
 B₂ : 2階出隅の場合0.8、その他の場合0.5
 L : 出隅の場合1.0、その他の場合1.6
 H₁ : 当該階の横架材の上端の相互間の垂直距離
 ただし、3.2m以下の場合は2.7mとする
 H₂ : 当該階に連続する壁における2階の横架材の
 上端の相互間の垂直距離
 ただし、3.2m以下の場合は2.7mとする



柱接合部判定表 (H1 = 2.700, H2 = 2.700) ※横架材の上端の相互間の垂直距離は3.2m以下

階	通し柱	柱位置		出隅柱	信架材上端間の垂直距離		H1/2.7	H2/2.7
		X	Y		階数1又は階数2の1階	階数2の2階		
1		○	○	○	1.00	1.00	(2.00-0.50) × 0.80 ×	(2.00-1.00) × 1.00 ×
		×	×	×	1.00	1.00	(2.00+0.50) × 0.50 × 1.00 + (2.00-0.50) × 0.50 × 1.00 - 1.00	(2.00-1.00) × 1.00 - 1.00
		×	×	×	1.00	-	0.00 × 0.50 × 1.00 + 1.6	-
		×	×	×	1.00	1.00	(2.00+0.50) × 0.50 × 1.00 + (2.00-0.50) × 0.50 × 1.00 - 1.00	(2.00-1.00) × 1.00 - 1.00

Hが3.2m以下の
場合のみ対応

H=2.7の表記を
アウトプット

必要壁量 積雪量の緩和計算

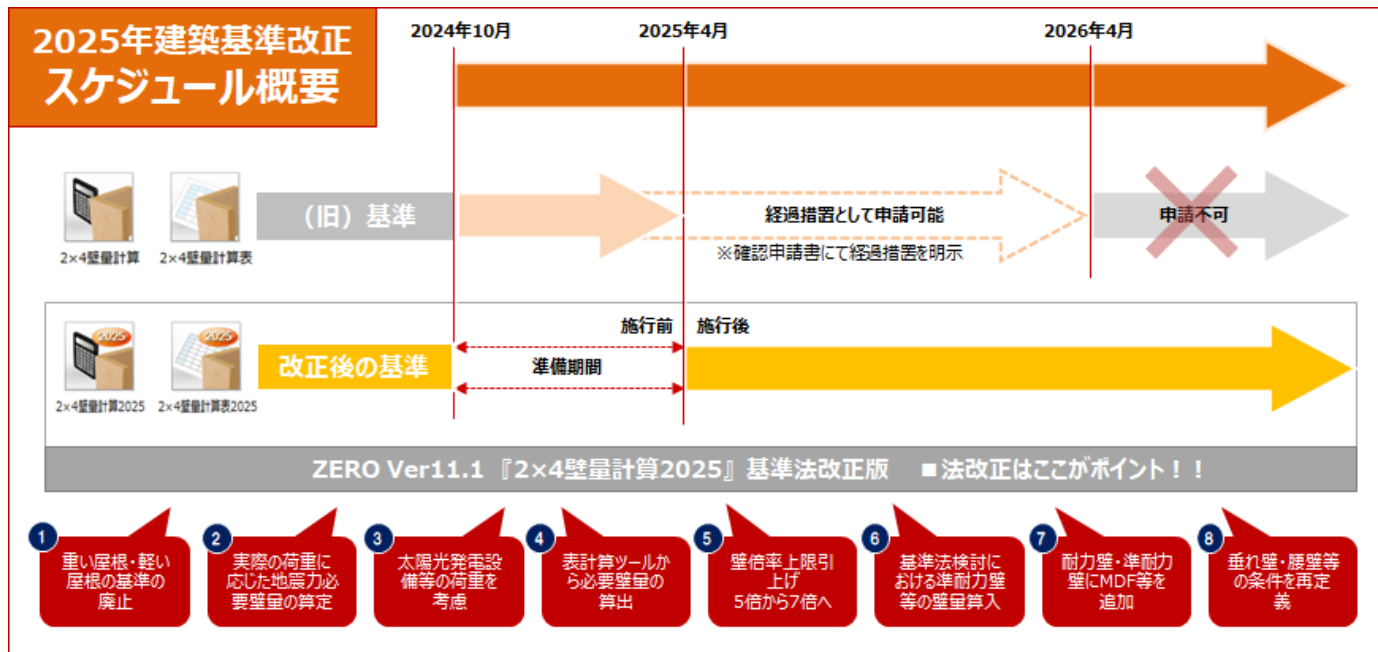
積雪量の緩和計算に対応しました。性能表示の必要壁量の算出で、多雪地域の場合に「低減係数」を考慮できるようになりました。日本住宅・木材技術センターの「表計算ツール（多機能版）」に準じた計算が可能です。



2×4 壁量計算 2025

2×4 壁量計算 法改正対応

2025年4月施行の2×4壁量基準に対応しました。太陽光発電設備等や屋根・外壁・断熱材等の仕様を考慮した「表計算ツール（多機能版）（※2）」に基づき、新基準にて設計図書作成が可能になりました。



- ※1 従来のプログラムは『2×4 壁量計算』（旧基準での算定）のまま利用が可能で、新プログラムを『2×4 壁量計算 2025』（新基準での算定）としてリリースしました。『2×4 壁量計算』を購入済の場合は、ZERO Ver.11.1 にバージョンアップ・リビジョンアップすることで『2×4 壁量計算 2025』を利用できます。
- ※2 一般社団法人 日本ツーバイフォー建築協会（以下「日本ツーバイフォー建築協会」という）の支援ツールが公開されており、どなたでもダウンロードができて活用して算定が行えます。
- ※3 法改正の概要について、詳しくはプログラムヘルプトピックス『2025 法改正対応について』をご確認ください。

一括自動 新基準に対応

2025年4月施行の2×4壁量基準の『単位面積当たりの必要壁量』を求められるように対応しました。
必要壁量算出・見付面積・床面積を自動算出することで図面作成手間を低減します。

一括自動作成

条件設定
地震力に對する耐震の基礎に關する数値を算出します。

基準法(住宅) 性能表示(等級2) 任意入力[m²/m²]

建築物計算条件 再取得 地震力

基礎高さ 2.7000 m
階層高さ 2.6000 m
建築物の最高高さ 8.0000 m
最高高さ-軒高さ 2.1800 m
階層床面積 49.68 m²
階層床面積 62.93 m²
軒の出 0.6000 m
屋根勾配 4.00 / 10

地震力
地震地価係数 1.0
建築中心力係数 0.2
階層数係数 0.0
積雪の地域 多雪区
積雪量 1.00 (m)
壁の仕様 乳突壁(土主壁) (90 N/m²)
外壁の仕様 サイディング (600 N/m²)
耐力壁の仕様 耐力壁用断熱材
外壁断熱材 切取断熱材

一括自動作成
地震力、床面積、見付面積の設定
地震力の設定、全層の床面積設定、全方向の見付面積設定を行います。

基準法

	平屋	1F	2F
必要壁量(m ² /m ²)	0.340	0.530	0.430

性能表示

	平屋	1F	2F
等級1	0.340	0.530	0.430
等級2	0.430	0.670	0.540
等級3	0.510	0.800	0.650

新基準の条件設定をスムーズに

新基準の『単位面積当たりの必要壁量』を算出

必要壁量 新基準に対応

2025年4月施行の2×4壁量基準の必要壁量算出に対応しました。新壁量係数(地震力の乗ずる数値)は日本ツーバイフォー建築協会が提供する「表計算ツール(多機能版)(※)」に準じています。
必要壁量の算定において、基準法モードと性能表示モードにおいて、積雪量の緩和に対応しました。

一括自動

表計算ツール(多機能版)に基づいた計算が可能

新しい壁量等の基準に対応した表計算ツール(枠組壁工法用)(多機能版)

壁量等の基準(令和7年施行)に対応した枠組壁工法用の床面積あたりの必要壁量を計算する2つの表計算ツール(Ver.1.1)

①枠組壁工法版
②多機能版(詳細設定が可能)

(注) ご使用前に解説・注意事項、更新履歴のシートタブをご確認ください。
※早見表は当協会では作成していません。

※ 表計算ツール(多機能版)は、2024年12月時点の日本ツーバイフォー建築協会の公式ホームページ URL <https://www.2x4assoc.or.jp/technology/technical/> を参考としています。

基準法に準耐力壁等の算入

準耐力壁等の壁量を考慮ができるように対応しました。
建築基準法に算入する準耐力壁等を、任意に存在壁量として算入することが可能になりました。
また、日本ツーバイフォー建築協会発行の「2階建て木造一戸建て住宅(枠組壁工法)等の確認申請・審査マニュアル」に沿った、準耐力壁「垂れ壁・腰壁」「支持壁」「間仕切壁」の入力が可能になりました。

基準法モード

準耐力壁等の入力が可能に

垂れ壁・腰壁/支持壁/間仕切壁の選択が可能に

準耐力壁等

耐力壁削除

垂れ壁・腰壁 支持壁 間仕切壁

構造
壁構造 12.0mm石膏ボード 1.00
12.0mm石膏ボード 1.00
倍率 2.00

※ 準耐力壁等の基準法への算入に伴い、「準耐力壁等割合確認表」など複数の図面拡張を行っています。

耐力壁・準耐力壁凡例に MDF を追加

2025 年法施行に伴い、枠組壁工法において耐力壁及び準耐力壁等の仕様が追加及び新設されたため、対応しました。新設された MDF（中密度繊維板）は、専用初期設定で凡例登録し利用できます。

The screenshot shows the '耐力壁凡例の設定' (Standard Setting for Load-bearing Wall) dialog box. The '壁構造' (Wall Structure) tab is active, showing a list of wall types and their specifications. A callout bubble points to the '構造用MDF' (Structural MDF) entry, which is highlighted in blue in the list. Below the dialog, a table shows the updated list of materials with their specifications.

壁構造	仕様	単位	倍率	長さ	個所	壁量	合計
9.0mm二級構造用合板	× 3.50 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
7.5mm二級構造用合板	× 3.00 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
9.0mm二級構造用合板	× 3.00 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
7.5mm二級構造用合板	× 2.50 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
9.0mm二級構造用合板	× 3.70 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@50以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 4.80 (JAS規格/H15等 第233号 CN65等 外周@50以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 4.50 (JAS規格/H15等 第233号 CN65等 外周@75以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 3.60 (JAS規格/H15等 第233号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
9.0mm二級構造用合板	× 3.70 (JAS規格/S62等 第360号 CN50等 外周@50以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 3.00 (JAS規格/H15等 第233号 CN65等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 4.80 (JAS規格/S62等 第360号 CN50等 外周@50以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 3.60 (JAS規格/S62等 第360号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 3.60 (JAS規格/S62等 第360号 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
7.0mm二級構造用合板	× 2.50 (JIS A5905-1994(繊維板) CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 4.80 (JIS A5905-2014(繊維板) CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
構造用MDF	× 3.00 (JIS A5905-2014(繊維板) CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
構造用MDF	× 4.80 (JIS A5905-2014(繊維板) CN50等 外周@50以下, その他@200以下)						
構造用MDF	× 3.00 (JIS A5905-2014(繊維板) CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 2.50 (JIS A5417-1985 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						
6.0mmフレキシブル板	× 2.00 (JIS A5430(繊維強化セメント板) GNF40等 外周@150以下, その他@300以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 2.00 (JIS A5914-1993(リブプレート) GNF40等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 1.70 (JIS A6901-2005 GNF40等 外周@100以下, その他@200以下)						
12.0mm二級構造用合板	× 1.50 (JIS A6901-2005 GNF40等 外周@100以下, その他@200以下)						
6.0mmフレキシブル板	× 1.30 (JIS A6901-2005 GNF40等 外周@100以下, その他@200以下)						
6.0mmフレキシブル板	× 2.00 (JIS A5417-1985 CN50等 外周@100以下, その他@200以下)						

※ 2×4 壁量計算 2025 では利用できますが、2×4 壁量計算（法改正前）では利用できません。

平面図に準耐力壁等を描画

2025 年法改正に伴い、基準法検討において準耐力壁等を存在壁量に算入することができます。2×4 壁量計算表 2025 の「平面図」コマンドに準耐力壁等を描画するように対応しました。準耐力壁等存在壁量算定表と照らしあわせ、準耐力壁等の位置と仕様が明確になりました。

The diagram illustrates the floor plan and the calculation table for standard load-bearing walls. The floor plan shows a room with various wall segments labeled P1-1 through P1-6 and W1 through W3. A callout bubble points to wall P1-3, which has a thickness of 0.910. The calculation table below details the dimensions and quantities for each wall segment.

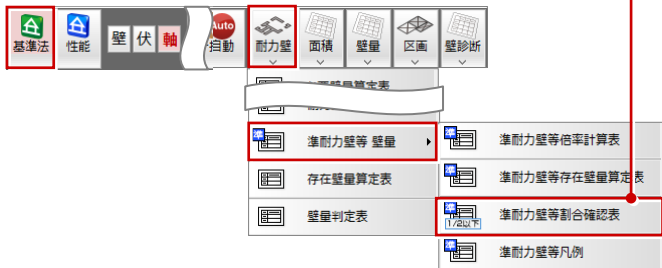
階	方向	記号	倍率 x	長さ	個所	壁量	合計	
2	X	P1-1	0.1	1.655	1	0.165	7.484	
		P1-2	0.1	1.655	1	0.165		
		P1-3	0.4	1.690	1	0.676		
		P1-4	1.4	1.655	1	2.317		
		P1-5	1.5	0.954	1	1.431		
		P1-5	1.5	1.820	1	2.730		
1	Y	P1-4	1.4	1.655	1	2.317	5.021	
		P1-6	1.6	1.690	1	2.704		
		P1-1	0.4	1.690	1	0.676		8.999
		P1-3	1.5	2.275	1	3.412		
		P1-3	1.5	1.454	1	2.181		
		P1-3	1.5	0.910	2	2.730		
P1-2	1.4	1.690	1	2.366	9.516			
P1-3	1.5	1.127	1	1.690				
		P1-3	1.5	3.640	1	5.460		

準耐力壁等割合確認表

基準法で算入している準耐力壁等の壁量が、地震力必要壁量の1/2未満であることを確認する『準耐力壁等割合確認表』に対応しました。
 基準法で算入している準耐力壁等の壁量が、適切であるかを確認することが容易になります。

階	方向	必要壁量		準耐力壁等壁量		判定
		A	A/2	B	B < A/2	
2	X	12.391	6.195	5.002	OK	
	Y	12.391	6.195	5.021	OK	
1	X	21.400	10.700	8.999	OK	
	Y	21.400	10.700	9.516	OK	

【2×4 壁量計算 2025】

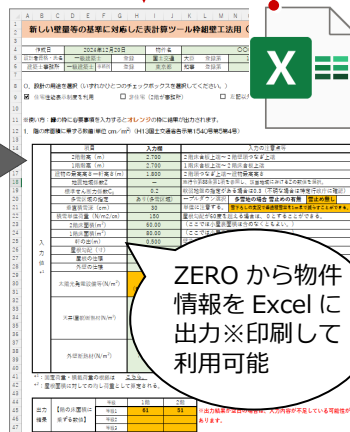
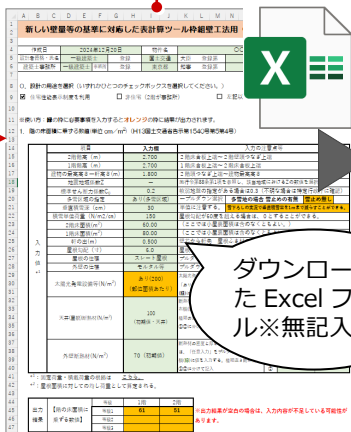
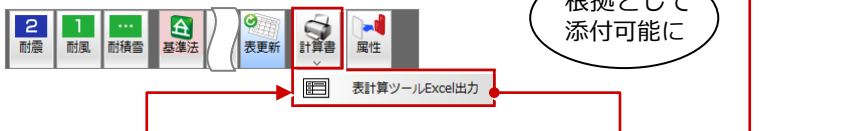


【2×4 壁量計算表 2025】



表計算ツール Excel 出力

日本ツーバイフォー建築協会の提供する「表計算ツール (多機能版)」に、物件情報を直接出力することが可能です。
 日本ツーバイフォー建築協会のホームページ <https://www.2x4assoc.or.jp/technology/technical/> からダウンロードした Excel ファイルを指定して、ZERO の計算結果を流し込みます。
 Excel 出力して必要壁量の根拠資料として利用できます。

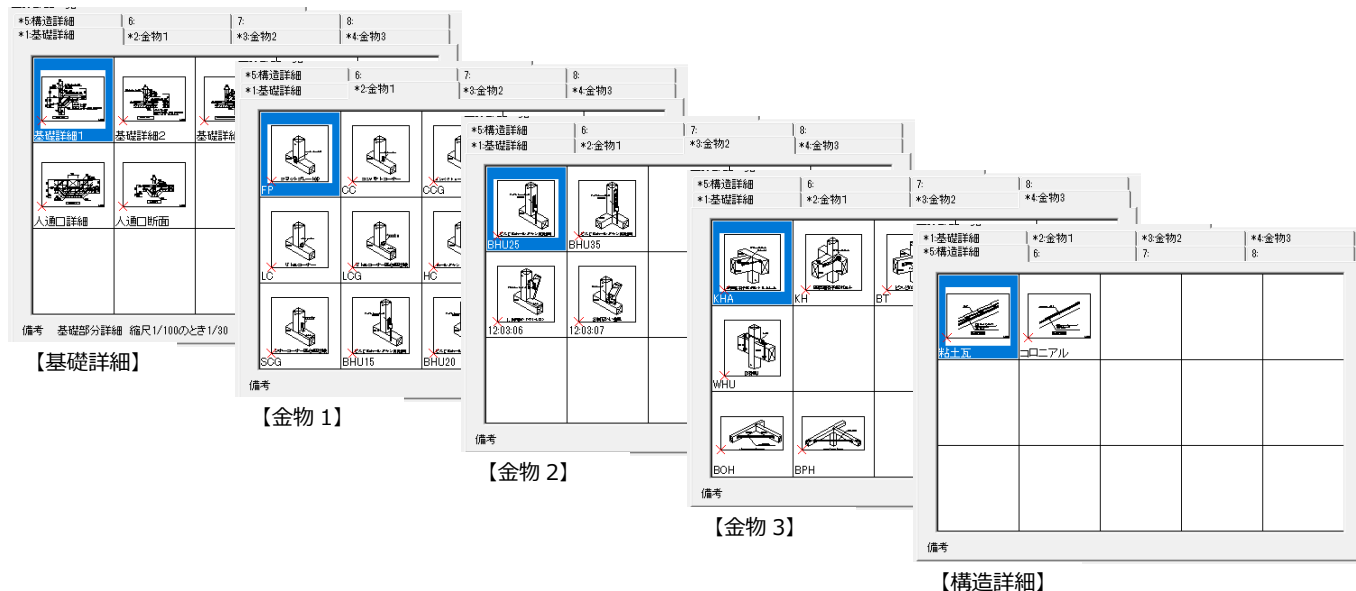
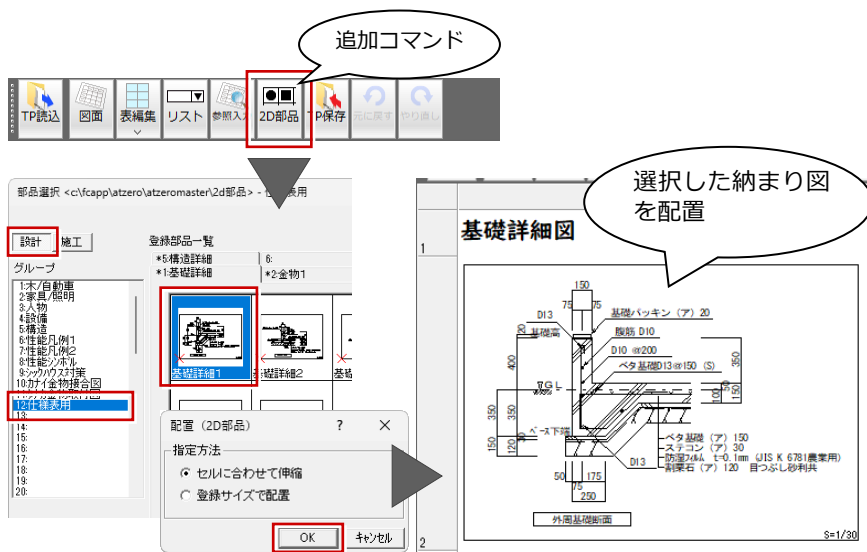


仕様表

2D 部品の配置機能を追加

耐火構造図等の構造詳細図、基礎の仕様、継手及び仕口の構造方法など、2D 部品マスタに登録されている各納まり図を仕様表に配置できるようにしました。
また、2D 部品マスタに各納まり図を収録しました。

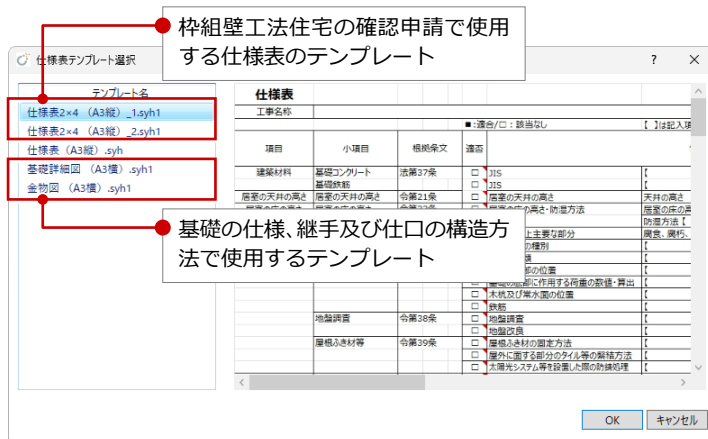
※ 2025年2月版以前のプログラムから更新した場合は、FC アカウントの更新ツールで2D 部品マスタ（「2D 部品_2503」フォルダ）を追加してください。追加した各納まり図を使用するときは、このマスタに切り替える必要があります。



仕様表テンプレートを追加

枠組壁工法の木造一戸建て住宅を確認申請するときの仕様表のテンプレートを追加しました。
また、基礎の仕様、継手及び仕口の構造方法のテンプレートも追加しました。

※ 2025年2月版以前のプログラムから更新した場合は、FC アカウントの更新ツールで仕様表マスタ（「仕様表_2503」フォルダ）を追加してください。追加したテンプレートを使用するときは、このマスタに切り替える必要があります。



【「テンプレートを開く」画面】

外皮性能計算

熱的境界（基礎）土間天端高さの対応

2024年12月に「基礎形状によらない値を用いる方法」の線熱貫流率の算定方法が更新されました。これによる基礎仕様の設定について対応を行いました。

土間床先端が地盤面と同じか高い場合の土間床等の外周部の線熱貫流率
 ※ 令和4年4月以降は土間床先端の崖の底部の差が1m以上の場合は含みません。

土間床先端と地盤面との差F (m)	土間床等の外周部の線熱貫流率 (W/mK)
$H1 \geq 0$	0.99

土間床先端が地盤面より低い場合の土間床等の外周部の線熱貫流率

土間床先端と地盤面との差E (m)	土間床等の外周部の線熱貫流率 (W/mK)
$0 > H1 \geq -0.05$	0.98
$-0.05 > H1 \geq -0.50$	1.47
$-0.50 > H1 \geq -1.00$	1.70
$-1.00 > H1 \geq -2.00$	1.95
$-2.00 > H1 \geq -5.00$	2.43
$-5.00 > H1$	3.24

土間床先端と崖の底部の差が1m以上の土間床等の外周部の線熱貫流率
 ※ この場合「仕様設定（基礎）」ダイアログの「ユーザー設定」で線熱貫流率の値を設定してください。

土間床先端と崖の底部の差 (F+L) (m)	土間床等の外周部の線熱貫流率 (W/mK)
1以上	1.58

【 従来 Ver11.0 】

土間床先端が地盤面と同じか高い場合の土間床等の外周部の線熱貫流率

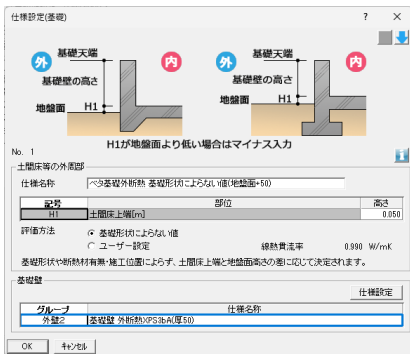
土間床先端と地盤面との差 (m)	土間床等の外周部の線熱貫流率 (W/mK)
$1.000 > H \geq 0.000$	0.990
$H \geq 1.000$	1.580

土間床先端が地盤面より低い場合の土間床等の外周部の線熱貫流率

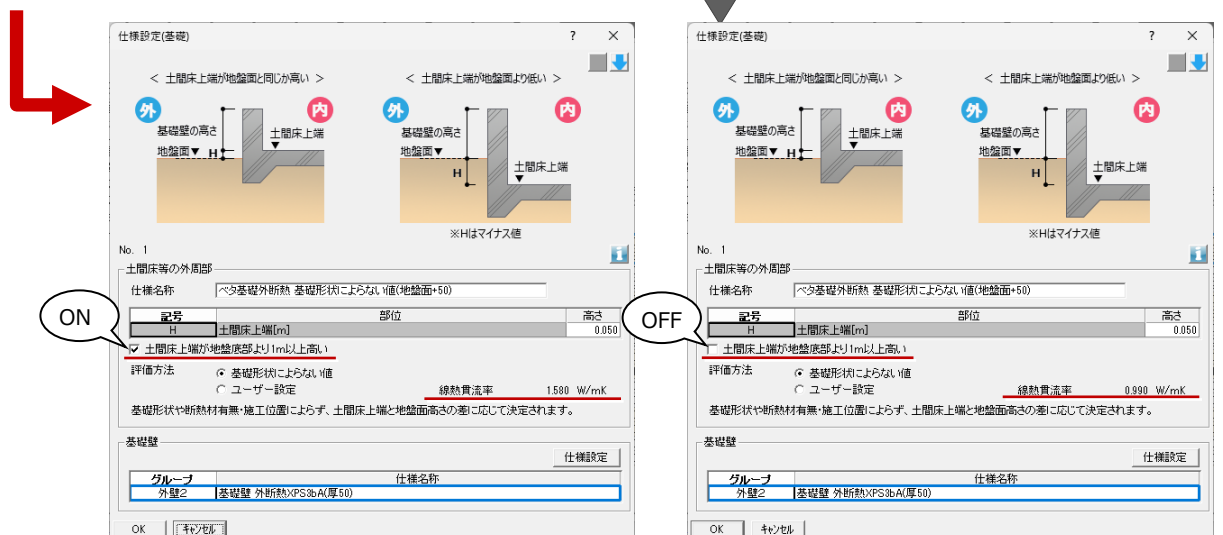
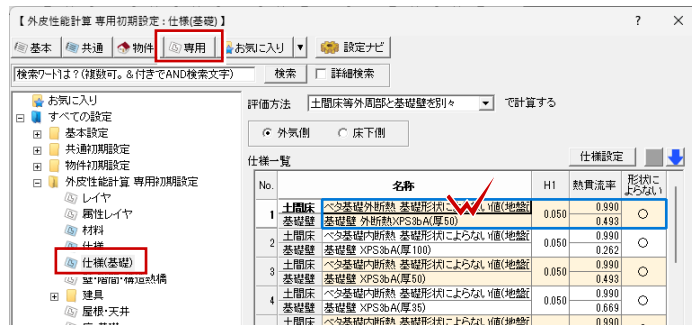
土間床先端と地盤面との差 (m)	土間床等の外周部の線熱貫流率 (W/mK)
$0.000 > H \geq -0.050$	0.980
$-0.050 > H \geq -0.500$	1.470
$-0.500 > H \geq -1.000$	1.700
$-1.000 > H \geq -2.000$	1.950
$-2.000 > H \geq -5.000$	2.430
$-5.000 > H$	3.240

【 Ver11.1 】

「仕様設定（基礎）」ダイアログは、高さを設定しやすいように基礎断面のイメージ図を変更しました。また、「土間床先端が地盤底部より1m以上高い」のチェックボックスを設けON・OFFの切り替えで線熱貫流率の値が変わります。



【 従来 Ver11.0 】



【 Ver11.1 】

基礎の仕様表を作図する際も、土間床上端の高さの設定によって下図のような表を配置します。

The diagram illustrates how the '仕様表(基礎)' (Foundation Specification Table) is generated based on the '土間床上端の高さ' (Floor Slab Top Height) relative to the ground level. It shows four scenarios:

- 高さ 0 (Height 0):** When the floor slab top is at the same level as the ground (H=0). The calculation table shows a value of 0.000 for the slab height and 0.990 for the linear heat transfer coefficient.
- 0.050m (Height 0.050m):** When the floor slab top is 0.050m above the ground. The calculation table shows a value of 0.050 for the slab height and 0.990 for the linear heat transfer coefficient.
- 1.000m (Height 1.000m):** When the floor slab top is 1.000m above the ground. The calculation table shows a value of 1.000 for the slab height and 1.580 for the linear heat transfer coefficient.
- 1.000m (Height -1.000m):** When the floor slab top is 1.000m below the ground. The calculation table shows a value of -1.000 for the slab height and 1.700 for the linear heat transfer coefficient.

The '仕様表(基礎)' table in the software interface is highlighted in red, showing the '高さ' (Height) and '線熱貫流率' (Linear Heat Transfer Coefficient) columns.

この他に、「2D 部品」に土間床等外周部と基礎壁を別々に計算する場合の基礎断面を追加しました。また、既存断面も変更しました。作図の際にご利用ください。

※ 2025年2月版以前のプログラムから更新した場合は、2D 部品マスタを追加してください。⇒ P.10 「2D 部品の配置機能を追加」を参照

The screenshot shows the '2D 部品' (2D Parts) configuration window. The '配置' (Configuration) button is highlighted in red. The '2D' button is also highlighted in red. The '変更' (Change) and '追加' (Add) buttons are also highlighted in red. The window displays a list of parts and their configurations.

省エネ仕様基準

自動配置時の外気床チェック機能

「自動」ダイアログ、および「断熱材設定」ダイアログの設定時に、外気床の有無や断熱材との関連が不適合な場合は、メッセージで注意を促し、早い段階で外気床断熱材の設定がおこなえるようになりました。

※右図は、「自動」コマンドにおいて、外気床がいずれかの階で作成されるにもかかわらず、「床（外気）」チェックが「OFF」の場合の例



3DC ガラス仕様選択の絞り込み対応

「仕様選択」ダイアログの上部に、「絞り込み検索」に関連する機能を追加しました。3Dカタログのガラス仕様を選択時に絞り込むことができ、仕様値、試験値等に対して対応しています。また、ガラスマスタの使用の有無などで、表示される項目が異なります。



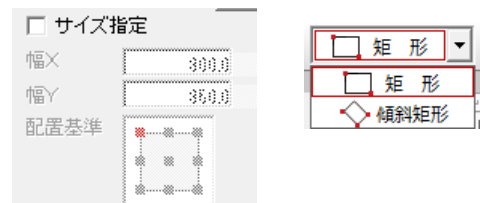
設備機器のサイズ指定入力対応

暖房、冷房、給湯においては、サイズ指定と1点+方向入力もできるようになりました。また、すべての機器において、配置基準を考慮した入力がおこなえるようになりました。

暖房・冷房・給湯の入力方法

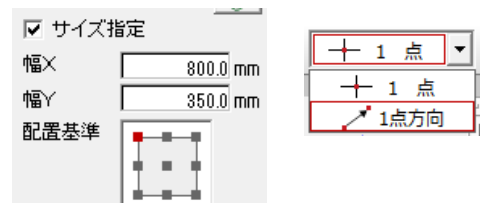
【サイズ指定：OFF】

- ・対角2点入力（以前の入力方法と同等）



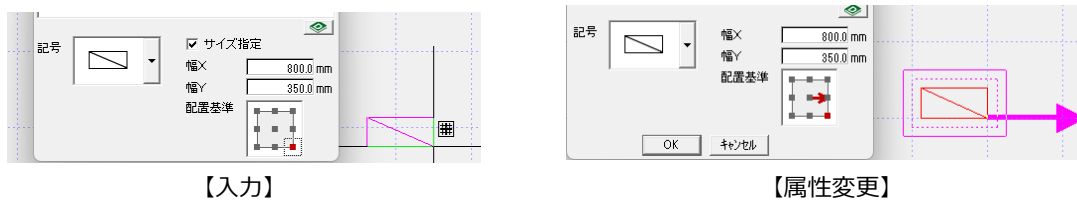
【サイズ指定：ON】

- ・配置基準とサイズの指定（新規入力方法）



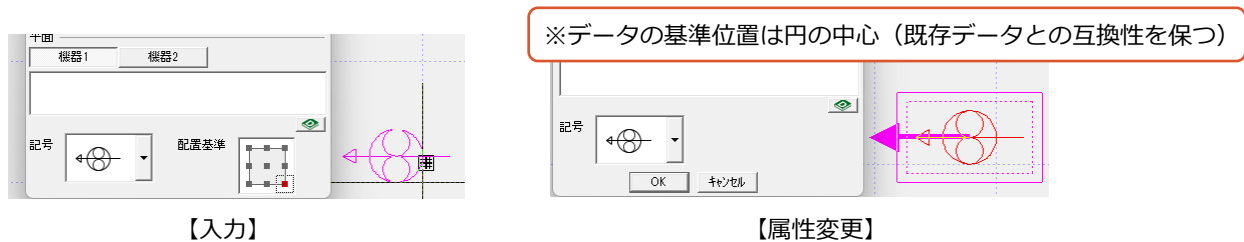
暖房・冷房・給湯の配置基準

サイズ指定のチェック ON の場合、配置基準が有効になります。
また、属性変更において、サイズの変更をおこなうことができます。



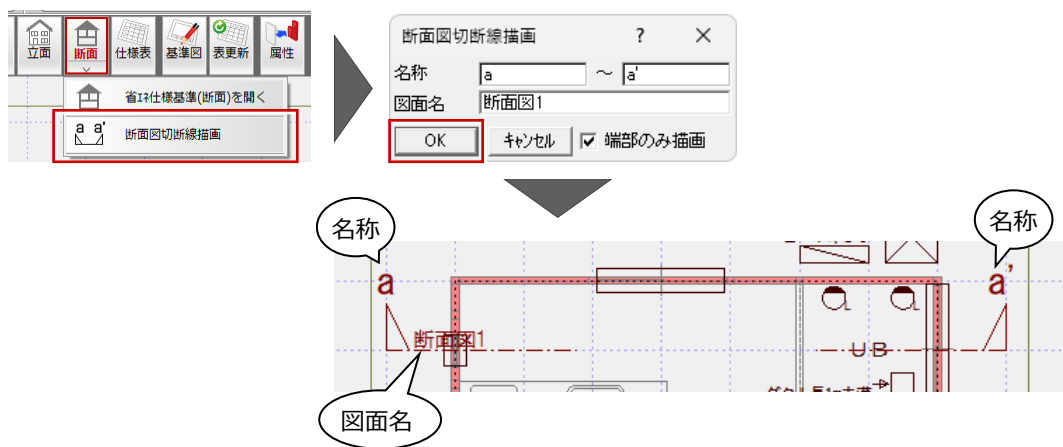
換気・照明の配置基準

配置基準を考慮した入力がおこなえるようになりました。
また、属性変更等において、配置後のデータの基準位置は、配置基準によらずシンボル中心となります。

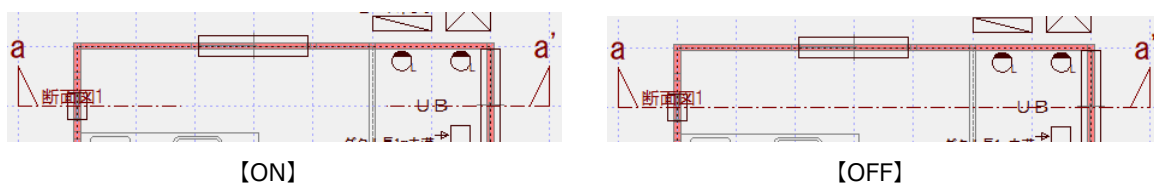


切断線の描画に対応

省エネ仕様基準において、指定面断面図の切断線を配置できるようになりました。
また、ここで配置した切断線は、省エネ仕様基準図で配置した平面図において連動して表現されます。



※「端部のみ描画」を ON にすると、切断線の途中を省略して、両端部のみ描画します。



※ Ver11.1（2025年3月）以前に読み込んだ断面データでは切断線を描画することができませんので、再度断面を読み込み直すか、切断線を出したい位置に汎用の切断記号を手動で配置する必要があります。

ただし、再度断面を読み込み直した場合は、入力済みの断熱材等は削除されますので注意が必要です。

※ 切断線の形状変更は、属性変更でおこなうことができます。

※ 省エネ仕様基準の切断線の図面名が、省エネ仕様基準図における断面図の名称となります。

省エネ仕様基準図

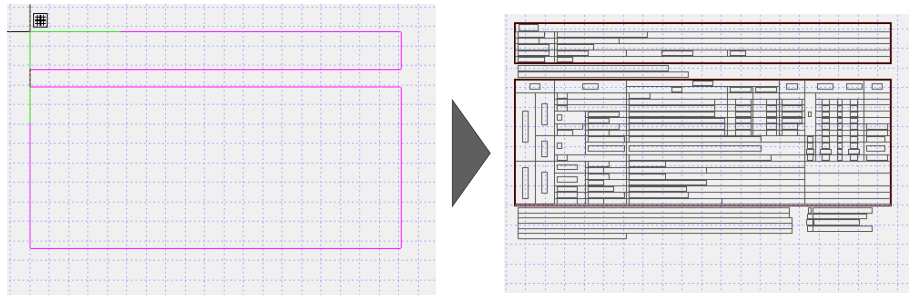
丸め方法表の配置

仕様表の配置時に丸め方法表の配置がおこなえるようになりました。

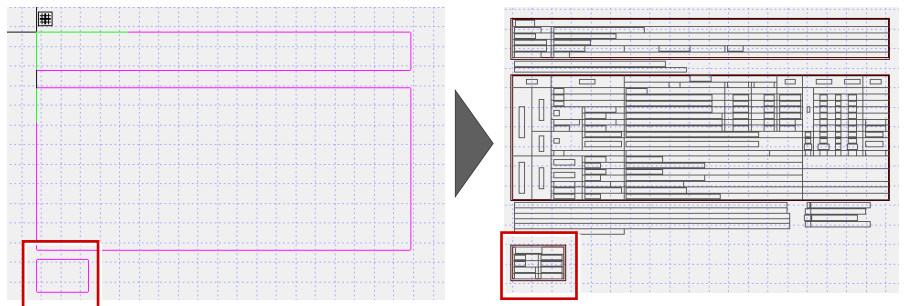
省エネ仕様基準図の専用初期設定の「表」－「仕様表」に、「丸め方法」の設定が追加されました。



【丸め方法配置：OFF】
仕様表のみ配置される。
(以前の配置方法と同等)



【丸め方法配置：ON】
仕様表の左下に「丸め方法表」が配置される。
仕様表とは別属(新規配置方法)

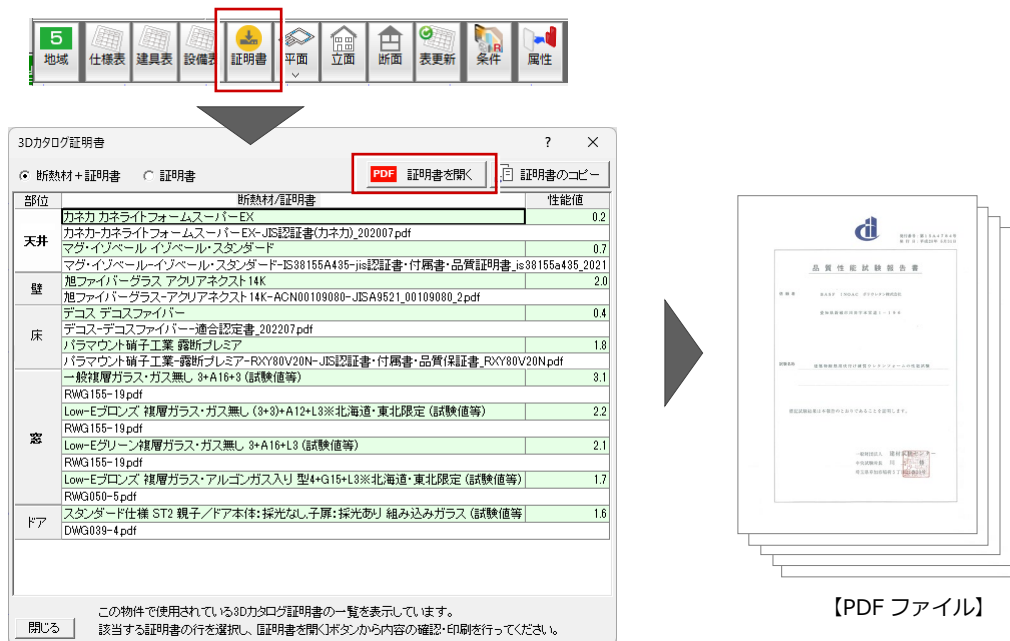


※ 省エネ仕様基準図の専用初期設定において、配置する丸め方法表に関する設定がおこなえます。



3D カタログ証明書のダウンロード対応

「3D カタログ証明書」コマンドが新規で追加され、物件で使用している 3D カタログの断熱材、建具の証明書をダウンロードし、一覧表示することができるようになりました。必要に応じて印刷も可能です。



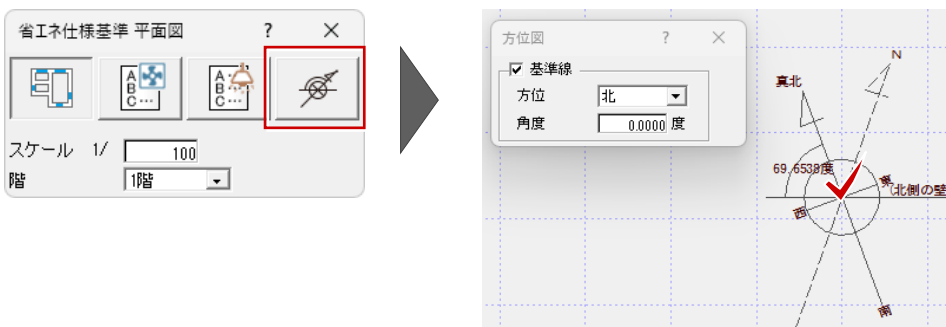
設備凡例入力ボタンの識別

「平面」コマンドの換気設備凡例と照明設備凡列入力時の選択ボタンにおいて、換気と照明が識別しやすいようなアイコンに変更しました。



方位図の対応

「平面」コマンドの「省エネ仕様基準 平面図」ダイアログから方位図を配置できるようになりました。

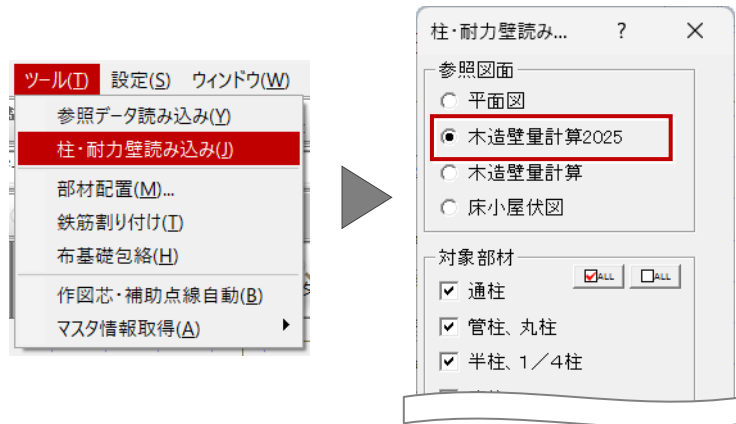


- ※ 新たに方位図を配置すると、既存の方位図は削除されます。
- ※ 配置図 (1 面) または平面図 (1 階) の方位マークを参照して、方位図を作成します。
配置図 (1 面) にも平面図 (1 階) にも方位マークがない場合は、画面の上を真北とみなします。
- ※ 方位図のフォント、スタイルは「共通初期設定：フォント」の「一般文字」の設定を参照します。

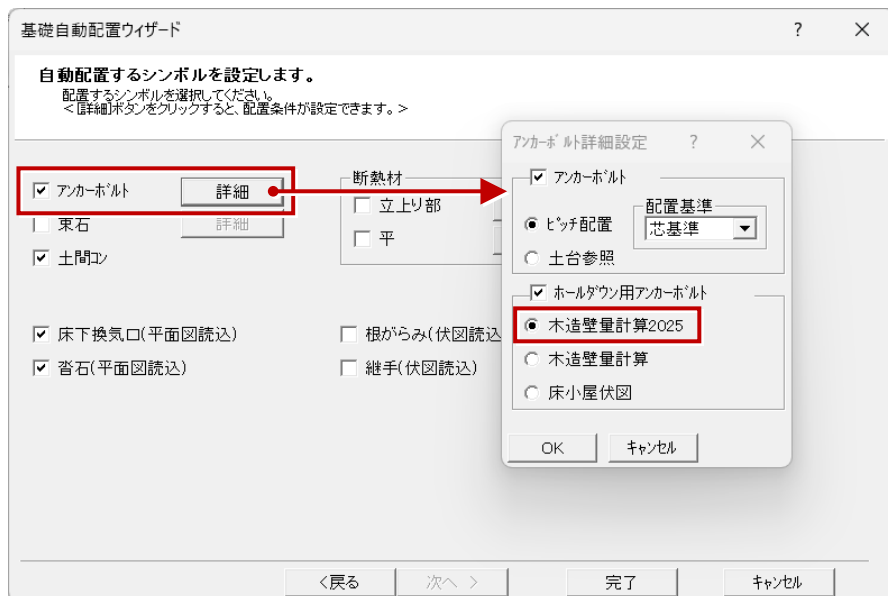
基礎伏図

壁量計算 2025 の読み込み

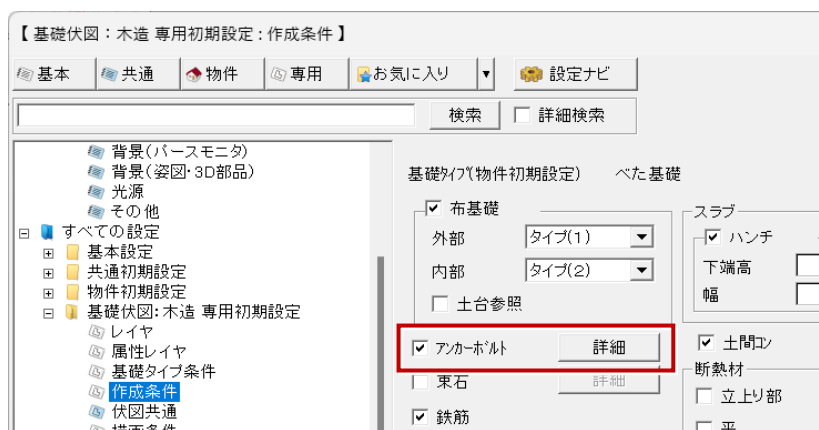
柱・耐力壁に関して、壁量計算 2025 を読み込めるように対応しました。



「自動立上」 - 「基礎自動配置ウィザード」 - 「アンカーボルト詳細」
へ壁量計算 2025 を読み込めるように対応しました。



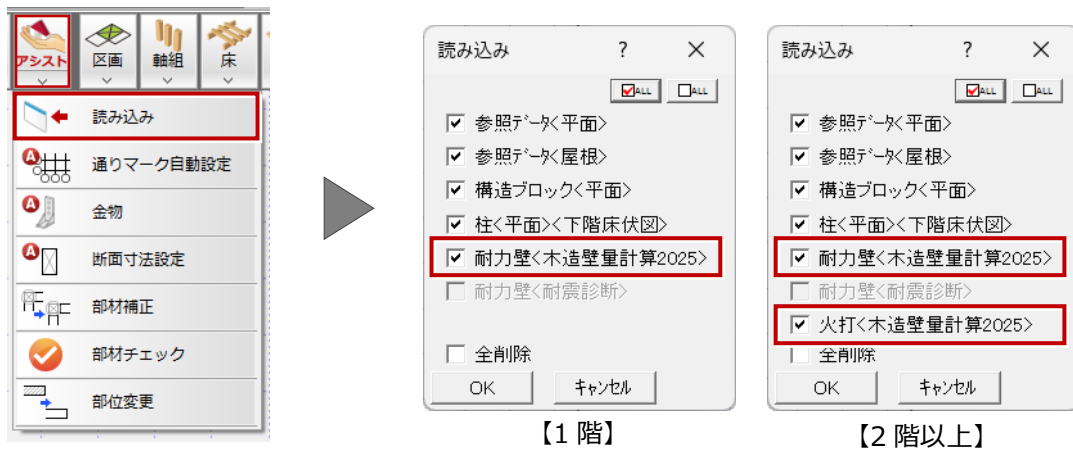
※ 「専用初期設定」 - 「作成条件」 も同様に改善しました。



床小屋伏図

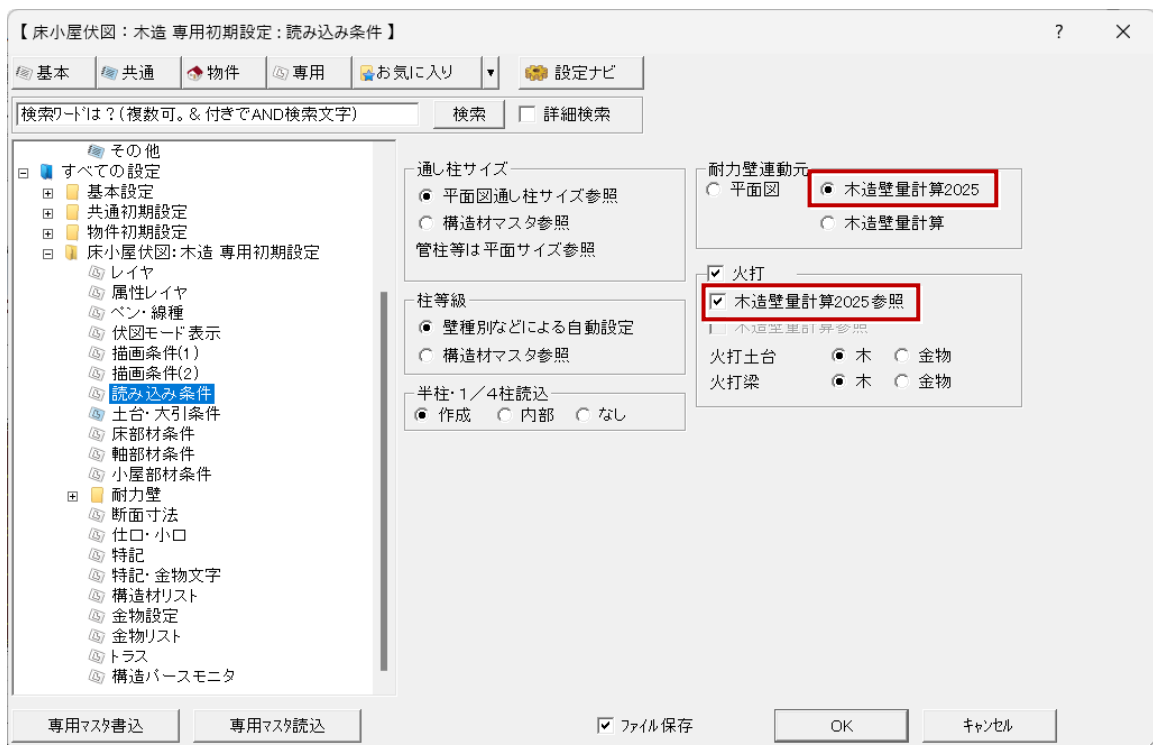
壁量計算 2025 の読み込み

耐力壁に関して、壁量計算 2025 を読み込めるように対応しました。



※「金物」（金物自動設定）も同様に耐力壁連動元を「平面図」、「木造壁量計算」or「木造壁量計算 2025」より自動的に考慮します。なお、「木造壁量計算」「木造壁量計算 2025」の両方にデータが存在する場合は「木造壁量計算 2025」を優先します。

上画面の表記元は「専用初期設定」－「読み込み条件」で切り替えます。



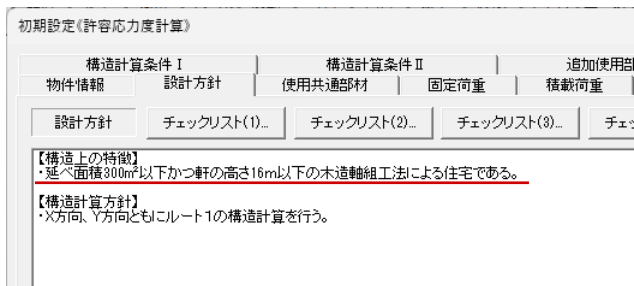
木造構造計算

設計方針（構造上の特徴）の対応

2025年4月施行の建築基準法改正より、構造計算対象の規模が変更となるため、「初期設定（設計方針）」の内容を更新しました。

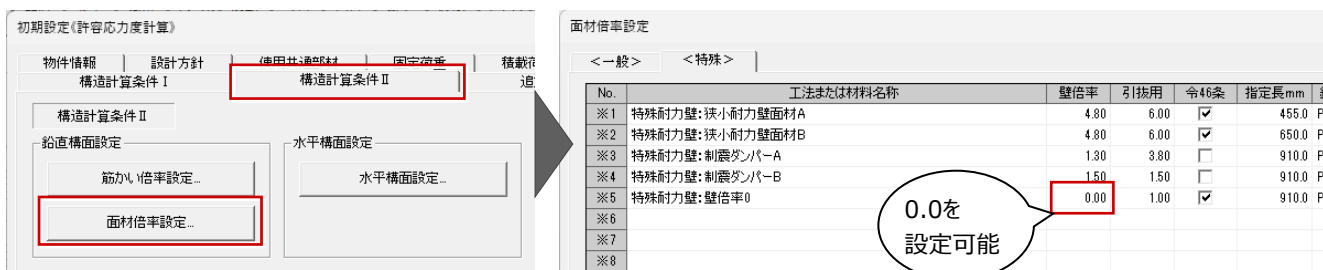
変更前：500㎡以下かつ軒の高さ9m以下かつ高さ13m以下
 変更後：300㎡以下かつ高さ16m以下

※ 木造構造計算マスタの更新後、新規データ作成時に確認できます。



特殊耐力壁の壁倍率 0.0 の対応

特殊耐力壁の壁倍率にて「0.0」を設定できるように改良しました（入力範囲：0.0～20.0）。壁量には算入しないが、金物の引抜力を考慮する場合は、壁倍率 0.0 とし、引抜用壁倍率を設定してください。

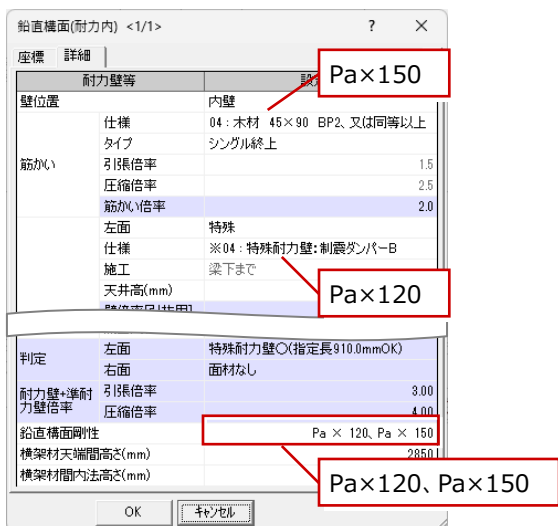


建物全体と異なる剛性について

建物全体の剛性と異なる特殊耐力壁が採用されている場合の剛性の算出方法を平均から合算に変更しました。

Ver.11.0：剛性（平均値） = $P_a \times 135 / H$ ※ $(120 + 150) / 2 = 135$

Ver.11.1：剛性（合算値） = $(P_a \times 120) / H + (P_a \times 150) / H$



【鉛直構面 属性変更ダイアログ】

(4) 鉛直構面の剛性算定表

(表中語句の説明)
 通り：壁のある通り

耐力 P_a (kN) : $\alpha_i \times l_i \times 1.96$
 横架材天端間高 H (m) : 横架材天端間高さ ※印
 剛性 K (kN/m) : $P_a \times 150 / H$ (* : $P_a \times 120 / H$)
 耐力 ΣP_a (kN) : 通りの耐力合計
 通り剛性 D_i (kN/m) : 通りの剛性合計

【計算書「鉛直構面の許容耐力と剛性の算定」】

剛性 $K = 2.390 \times 150 / 2.850 = 125.789$

剛性 $K = 2.390 \times 120 / 2.850 = 100.632$

剛性の合計 226.421

通り	位置	壁種別	①	②	③	各倍率	倍率計	梁上底減係数	壁倍率 α_i	長さ l_i (m)	耐力 P_a (kN)	横架材天端間高 H (m)	剛性 K (kN/m)	耐力 ΣP_a (kN)	通り剛性 D_i (kN/m)
Y2.5	X0-X1	耐力壁	1.50			1.50	3.00	0.892	1.34	0.910	2.390	2.850	125.789	4.780	226.421
			1.50	1.00		1.50			1.34	0.910	2.390	2.850	100.632		

【鉛直構面の許容耐力と剛性の算定】の (4) 鉛直構面の剛性算定表

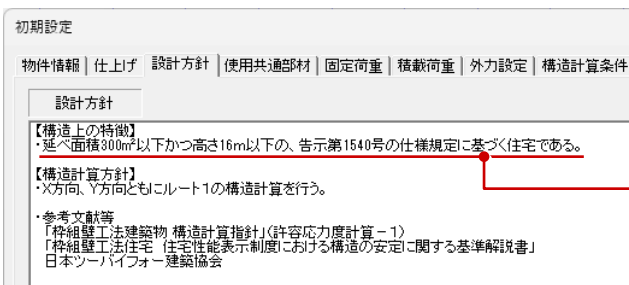
2×4 構造計算

法改正の対応

2025 年 4 月施行の建築基準法改正に伴い、以下に対応しました。

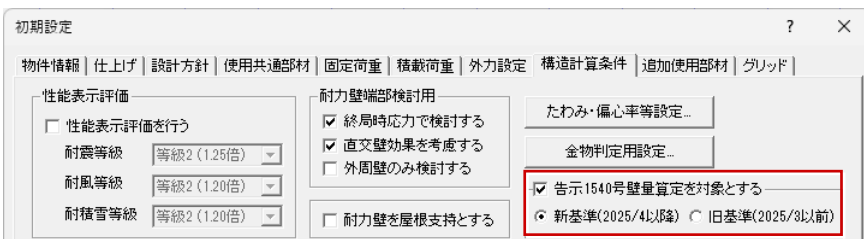
- ① 設計方針（構造上の特徴）を変更
- ② 告示 1540 号壁量算定を対象とする設定を追加
- ③ 構造計算結果の高さに関する制限（13m⇒16m）を変更

① 設計方針（構造上の特徴）を変更



「初期設定（設計方針）」の内容を更新しました。
 変更前：500㎡以下かつ軒の高さ9m以下かつ高さ13m以下
 変更後：300㎡以下かつ高さ16m以下
 ※ 2×4 構造計算マスタの更新後、新規データ作成時に確認できます。

② 告示 1540 号壁量算定を対象とする設定を追加



「構造計算」で告示第 1540 号壁量算定を行う場合は、「告示第 1540 号壁量算定を対象とする」を ON にします。
 ON の場合、計算書に以下が出力されます。
 ・「必要壁量の検討」にて、(告示) が出力されます。
 ・「告示 1540 号に定める壁量の算定」が出力されます。

- 5. 必要壁量の検討及び分担水平力の算定
 - 1 耐力壁配置及び水平分担率計算図
 - 2 告示1540号に定める壁量の算定
 - 3 必要壁量の検討
 - 4 短期可重時判定比図
- 6 応力解析
 - 1 風圧力による応力
 - 2 地震力による応力
 - 3 耐力壁端部検用応力
 - 4 壁の短期軸力表

Lne：地震荷重による必要壁量
 Lnw：風荷重による必要壁量

方向	階	Ld(m)	地震時				暴風時		
			(告示)	Lne	Lne/Ld	判定	(告示)	Lnw	Lnw/Ld
X	2	39.966	6.71	8.566	0.214	OK	8.60	7.695	0.193
	1	43.935	12.97	18.960	0.432	OK	19.20	16.014	0.364
Y	2	58.929	6.71	8.566	0.145	OK	7.89	7.043	0.120
	1	50.838	12.97	18.960	0.373	OK	16.61	13.865	0.273

2025 年 4 月施行後の新基準の内容で計算する場合は、「新基準 (2025/4以降)」を ON にします。

【必要壁量の算出】

係数を求める算定式： $Lw = (Ai \cdot Co \cdot \sum wi) / (1.96 \cdot Afi)$

- ※ Ai：各階層せん断力分布係数
- ※ Co：「初期設定：外力設定」－「標準せん断力係数 Co」
- ※ $\sum Wi$ (kN)：各階地震力算定用重量
- ※ Afi：「初期設定：物件情報」－「階情報」－「各階床面積」の値

5-2 告示 1540 号に定める壁量の算定

(1) 地震力に対する必要壁量 [新基準(2025/4以降)の算定方法を採用]

階	Ai	Co	$\sum Wi$ (kN)	床面積 (㎡)		必要壁量 (m)
				①Afi	②Lw	
2	1.348	0.200	62.181	44.72	0.191	8.54
1	1.000	0.200	185.808	44.72	0.424	18.96

算定式： $Lw = (Ai \times Co \times \sum Wi) / (1.96 \times Afi)$

5-2 告示 1540 号に定める壁量の算定

(1) 地震力に対する必要壁量 [旧基準(2025/3以前)の算定方法を採用]

階	床面積 (㎡)		必要壁量 (m)
	①床面積	②軽い屋根	
2	44.72	0.150	6.71
1	44.72	0.290	12.97

③ 構造計算結果の高さに関する制限（13m⇒16m）を変更

「簡易な構造計算」における3階建て対象高さの拡大、対象規模の引き下げにより、以下のエラーメッセージを変更しました。

● エラー：0109W

最高高さが16mを超えています【2025年4月～】

- ・ 最高高さが16mを超え、かつ「層間変形角・剛性率・偏心率」の「層間変形角の検討」(※)がOFFの場合に表示されます。

● エラー：1029W

階数が3で最高高さ13m超かつ16m以下のため、鉛直方向の安全性確認が必要になります【2025年4月～】

- ・ 3階建て13m超16m以下で、かつ「層間変形角・剛性率・偏心率」の「層間変形角の検討」がOFFの場合に表示されます。

※「初期設定：構造計算条件」の「たわみ・偏心率等設定」にある

